

「覆土による閉鎖」の 決定を市は撤回せよ

シートは破れ毒物がもれていた

成田クリーンパーク問題報告書



市環境部との交渉。「ダイオキシンが埋まっている」と認めた（5月）

12月20日、成田市は成田クリーンパークを空港用地に転用する問題で、「覆土（土をかぶせる）」による閉鎖方針を明らかにしました。これは地域住民の生命と健康を危険にさらすものです。反対同盟は決定に抗議し白紙撤回を求めます。

クリーンパークに埋まっている焼却灰にはダイオキシンが大量に含まれています。このことは市の環境部も認めました。このダイオキシンが漏れ出せば、成田市十余三、小泉地区などの地下水が汚染されて、住民の生命と健康が脅やかされます。

住民の健康より北延伸の開業

【クリーンパーク問題】

暫定滑走路の北延伸にともなって、滑走路北端にある成田クリーンパークが空港保安用地として必要になったため、NAAと成田市がダイオキシンを含むゴミを埋め立て、違法に転用しようとしている環境汚染問題。

ところが今回市が明らかにした「成田クリーンパークの対応策について」では、この「有害物が漏れ出している可能性」が実際に確認されたのです。同報告では「塩化物イオン濃度と電気伝導率」が「自然環境よりも大きな値となっている」と認め、「地下水の水質に影響を与えている可能性がある」と明記しています（9ページ）。

「電気伝導率の上昇が毒物の漏れ出しを示す」ことは処分場問題の常識です。東京多摩の日の出处分場廃止問題で焦点になったのもこの値でした。つまり、1989年に開業したクリーンパークは老朽化しており、遮水用のゴムシートが破れているのです。

このように毒物漏出の危険を確認しながら、市は「毒物の全量撤去」ではなく「覆土による閉鎖」決定を下したのです。と

んでもない住民無視です。空港に転用された後汚染が確認されても、掘り返して毒物を撤去することなどできません。NAAは滑走路を止める気などさらさらなからです。クリーンパーク問題の出発点は、NAAが北延伸のために閉鎖を要求したからです。市は拒否すべきです。「覆土」にしたのも09年度の北延伸開業に間に合わせるためです。反対同盟は「覆土による閉鎖」の撤回を求めます。

塩素濃度、伝導率が異常に高い

三里塚芝山連合空港反対同盟

（連絡先） 事務局長 北原鉦治
成田市三里塚 115